

鈴とならしてカリフラワー

○ 登場人物

蒼汰（アツタ）… 男。高校生。敦紫の友達。

恒星（アツホシ）… 男。高校生。敦紫の友達。

敦紫（アツムらさ）… 男。高校生。故人。

○ シーン 1 駅前

蒼汰（２７）、駅前の電柱に寄りかかっている

蒼汰、スマホをいじっている

恒星（２７）、駅から出てくる

恒星、ポケットに手を突っ込んでいる

恒星、蒼汰を見る

恒星「おう」

蒼汰、スマホから顔を上げる

蒼汰、手を軽くあげる

蒼汰「よお」

恒星、蒼汰のそばまで歩く

恒星「元気か？」

蒼汰「おう。行こか」

恒星「せやな」

蒼汰と恒星、歩いて行く

○ シーン 2 レストラン前

蒼汰と恒星、歩いている

恒星、レストラン”を指さす

恒星「こちやう？」

蒼汰、スマホで確認する

蒼汰「せやな。入るか」

恒星「うい」

○シーン3 レストラン テーブル席

蒼汰と恒星、向かい合わせに座る

蒼汰、メニューをとる

蒼汰「なに食う？」

恒星「カリフラワー入ったらんかったらなん

でもええわ」

蒼汰、メニューを開きながら笑う

蒼汰「今もかよ。まあそんな簡単に入っとる

もんとちやうて」

恒星、ニヤリと笑う

恒星「せやな」

蒼汰と恒星、しばらく談笑

蒼汰、メニューを指さす

蒼汰「じゃあこれとこれにするか」

恒星「せやな」

蒼汰、呼び出しボタンを押そうとする

恒星「すみませーん」

蒼汰、え？という顔で恒星を見る

店員「はい」

蒼汰「お前が呼ぶんかい」

恒星「こつちの方が早いやん」

蒼汰「お前文明の利器を全否定すなよ」

店員、二人の前に立つ

店員「ご注文お伺いします」

蒼汰「はい、じゃあ」

蒼汰と恒星、注文している

店員「では、失礼します」

恒星「あんがとさくん」

店員、一礼して去る

蒼汰、軽く会釈

蒼汰「さつきさ」

恒星「うん？」

蒼汰 「カリフラワーの話したやん」

恒星 「おん」

蒼汰 「あれから？」

恒星 「あれから」

蒼汰 「ずっと？」

恒星 「ずっと」

蒼汰 、溜息

蒼汰 「そうか」

恒星 、水をグツと飲む

恒星 、コップをタンと置く

恒星 「どうせお前もやる？」

蒼汰 、恒星を見る

蒼汰 、頷く

蒼汰 「俺らずっとこのままなんかな」

恒星 「さあな。でもお前最後食ったんいつや」

蒼汰 「十七んときやから、十年前か」

恒星 「ほんならもういけるんちゃう？」

蒼汰 「いやちなみに最近お前食ったんいつや

ねん？」

恒星 「二か月前」

蒼汰 「二か月前？！どやったん？」

恒星 「あかんかった」

蒼汰 「ほな今もあかんか」

恒星 「俺はな」

恒星 、テーブルに肘をつく

恒星 、蒼汰を指さして笑う

恒星 「お前は分からんやろ？」

蒼汰 、テーブルに肘をつく

蒼汰 、恒星の指を握る

蒼汰 「人に指さすな」

蒼汰 、恒星の指を曲げる

恒星 「痛い痛い痛い痛いごめんごめんごめん」

店員 、配膳しにくる

店員 「あの、お待たせいたしました」

蒼汰 、恒星の指を離す

恒星 、指をさする

蒼汰 「ありがとうございます」

店員 「ビーフシチューお二つです」

店員 、お皿を二人の前に置く

店員 「ごゆっくりどうぞ」

店員、一礼をして去る

蒼汰と恒星、手を合わせる

蒼汰と恒星「いただきます」

蒼汰、一口食べる

恒星、一口食べる

蒼汰、口を抑える

恒星、急いでメニューをとる

恒星、メニューをめくる

メニューにカリフラワーの文字

恒星、口を抑えながらメニューを見せ

る

蒼汰、メニューを見る

二人、顔を見合わせる

二人、一斉に立ち上がる

二人、走り出す

○シーン4 レストラン トイレ

二人、別々のトイレに駆け込む

蒼汰「おうええええええええええ」

我ながらごつつええ感じの人生送っ
とった」

恒星（「」）、助手席であくびをする

蒼汰、恒星をちらりと見やる

蒼汰「なーんも不自由してへんかったのに」

恒星「ラジオつけてええ？」

蒼汰、舌打ちをする

蒼汰「どーぞ勝手に」

恒星、ラジオをつける

ラジオ「本日未明、男子高校生が死体となっ

て発見され」

蒼汰、慌ててラジオを切る

恒星、後ろを向く

恒星「これはちやうやろ」

蒼汰、手が震えている

蒼汰「（呟く）そういう問題やと思っとなかド

アホ」

蒼汰「完璧やった俺は今、なんでか無免許
で運転しとる」

恒星、指でリズムを取っている

蒼汰「助手席にクラスメイト」

車のトランク

蒼汰「トランクルームに死体を載せて」

真っ黒な海

蒼汰「3人で、午前3時に。真っ暗な海沿いを走っている」

波の音

恒星「こういうときってさあ、普通山に行くもんとちゃうん？」

蒼汰、ハンドルを握りしめる

蒼汰「うっさいな。事故って死体が増えてもええんなら一生横で吠えてろ」

恒星「え、プロポーズ？」

蒼汰、思いつ切りブレーキを踏む

恒星、フロントガラスに顔をぶつける

蒼汰、真顔で前を向いている

蒼汰、恒星のシートベルトを指さす

蒼汰「こういうことがあるから法は守った方がええぞ」

恒星、涙目で顔をさする

恒星「はあい。でもさ、」

蒼汰、恒星の方を向く

蒼汰「なんや？」

恒星、笑う

恒星「いや、お前普段とキャラ違いすぎやろ」

蒼汰、もう一度アクセルを踏む

蒼汰「そりやせやろ」

トンネルに入る

蒼汰「家出、死体遺棄未遂、無免許運転の終

わってる三拍子刻んどんやぞ」

蒼汰、アクセルを少し緩める

蒼汰「そりや自暴自棄にもなるやろ」

恒星「まあそうか」

蒼汰「お前は見たまんまやな」

恒星「一応褒め言葉ってことにしとくな」

蒼汰「なんでそんなポジティブなん？」

蒼汰、溜息をつく

蒼汰「やるなら完全犯罪やからな」

恒星「そうこなくっちゃ。俺らだけの秘密や」

蒼汰「ああ」

トンネルを出る

恒星、窓をあける

蒼汰「あっおい」

恒星「風、気持ちええなあ」

蒼汰「なま温かい風が頬をなでた」

蒼汰「ほんまや」

鈴の音が微かに聞こえる

恒星、蒼汰を見る

恒星「なんか鈴の音聞こえん？」

蒼汰「あ？気のせいやろ」

鈴の音が微かに聞こえる

少し沈黙

蒼汰「すまん」

恒星「な？いやでもなんでこんな時間にこん

な場所だ」

蒼汰「それ以上言うな」

恒星「え？」

蒼汰「それ以上言ったら事故るぞ」

恒星「ええ……」

恒星、前を向く

恒星「死体無免許で運んどるくせに幽霊は
怖いんかい」

○シーン6 海 午前4時半

蒼汰、車から出てくる

恒星、車から出てくる

蒼汰 伸びをしている

蒼汰「あー。よかった無事ついて」

恒星「事故らんで良かったなあ」

蒼汰、トランクをあける

蒼汰「運ぶか」

恒星「おう」

○シーン7 浜辺 午前4時半

蒼汰と恒星、敦紫を運んでいる

〇人、敦紫を降ろす

蒼汰、腰を伸ばす

蒼汰「あー腰いったあ」

恒星「ほんなら俺シヤベル取ってくるわ」

蒼汰「おう。ありがとう」

恒星、走り出す

蒼汰、それを見送る

蒼汰、敦紫に視線を落とす

蒼汰、地面を見つめる

蒼汰、溜息をつく

蒼汰「なーんかいややわ。今から埋めます

よーゆう感じで」

蒼汰、冷や汗をかく

ブルーシートに包まれた敦紫

蒼汰「そうか。今から、おれ、埋めるんか」

恒星、シヤベルを持って戻ってくる

恒星「おーい」

恒星、蒼汰にシヤベルを渡す

恒星「ほいシヤベル」

恒星、敦紫と地面を見る

恒星「うわなんかめっちゃ嫌やわ今から埋め

ますよ！って感じで」

蒼汰「言うなや実感してたところなんやから」

恒星、勢い良くシャベルを突き刺す

蒼汰、それに続いて掘り始める

二人、しばらく無言で掘り続ける

蒼汰、溜息をつく

蒼汰「なんか中世かなんかの拷問みたいやな」

恒星「ああ、穴掘って埋めるだけのやつ？」

蒼汰「そう」

恒星「やるせなくなってくるわ。俺らこれや

ってる意味ある？分からんようになってきた」

敦紫が映る

蒼汰「本人の前でそれ言う？」

○シーン8 浜辺 午前5時

二人、穴を掘っている

蒼汰、手を止める

蒼汰「てかもうこれくらいじゃう？」

恒星、手を止める

恒星「せやな。埋めるか」

二人、敦紫の場所まで歩く

二人、敦紫を持つ

蒼汰「せーの」

恒星「どっこいしょお」

蒼汰「どっこいしょ？」

二人、敦紫を持ち上げる

二人、敦紫を運ぶ

二人、敦紫を穴に入れる

蒼汰「ふう」

恒星「埋める？」

蒼汰「埋めるか」

蒼汰、土をかけ始める

恒星、土をかけ始める

二人、しばらく無言で作業する

蒼汰、シャベルを置く

蒼汰「なーんか死人にこういうのもあれや

けど」

蒼汰、伸びをする

蒼汰「あっちでも健やかになって願ってまう

なあ」

蒼汰、恒星を見る

恒星、一心不乱に土をかけている

蒼汰「土かけんのはっやお前情緒無さすぎ

ん？」

恒星「うっさい情緒もクソもないわさっさと

埋めんねんこんなもん」

蒼汰「人の心ないんか」

恒星「あつたらこんなことしてないわ」

蒼汰「その原理で行くと俺もなくなない？」

恒星「じゃあないんちやう」

蒼汰「急に他人事なるやん」

蒼汰、シャベルを再び手に取る

蒼汰、土をかけ始める

蒼汰、敦紫を見る

蒼汰「彼の顔に土がかぶさっていく。どん

どん見えなくなっていく」

恒星、手を止めてため息

恒星「：俺らさあ」

蒼汰「うん？」

恒星「世間から見たら、犯罪者なんかな」

蒼汰、手を止めて恒星を見る

蒼汰「そりゃ悪党も悪党極悪党犯罪者野郎共

やろ」

恒星「なんか語呂ええのちよつといややな」

二人、少し笑う

恒星「極悪党犯罪者野郎共やもんな俺ら」

蒼汰「そうそう俺ら極悪党犯罪者野郎共やか

ら」

恒星「はは……」

恒星、目に涙が溜まっている

蒼汰、それに気づく

蒼汰「は？ちよつと待てやお前」

恒星、涙を流す

恒星「……っうああ。ああああ……っ。」

蒼汰「なんちゆうタイミングで……」

蒼汰、目に涙を溜める

恒星「……っうあああああっ」

恒星、大粒の涙を流して号哭

蒼汰、涙を流す

蒼汰「あほ……っあほお……っああ」

蒼汰、大粒の涙を流して号哭

蒼汰「……っうあああああっっ」

二人、泣きながら土をかけている

蒼汰「俺たちは泣きながらしばらく土をかけていた。俺もあいつも涙と鼻水でべっっちゃべっちゃやった。スコップが滑って身体が重い。泣くのにも体力がいるようで、余計にしんどかった」

恒星、鼻を吸いながら土をかけている

恒星、蒼汰を見る

恒星、突然吹き出す

恒星「いやっお前はははは」

蒼汰「あ？」

恒星「泣き顔つぶっさいくやなあ」

蒼汰「はあ！？お前なんやねんこの期に及ん

で」

恒星「あーっはっはっは」

蒼汰、吹き出す

蒼汰「ほんま、お前もその顔なんやねんもう」

恒星、涙を拭いながら笑っている

恒星「もう情緒ありすぎて溢れてるわ俺ら」

蒼汰、鼻水を拭う

蒼汰「ほんまになあ。あーあ」

恒星「もうさっさと埋めてまおか」

蒼汰「おう」

二人、土をかける

蒼汰「すまん。こんなコミカルに弔うつ

もりはなかったんやけど」

○シーン9 浜辺 午前5時半

二人、しゃがんで鼻を啜りながら手を

合わせている

蒼汰、涙を拭う

恒星、立ち上がる

恒星「そうや、花添えよや花」

蒼汰、恒星を見上げる

蒼汰「お前そんなん持ってきてたん？」

恒星「いや、なんも」

蒼汰、前を向いて立ち上がる

蒼汰、体に着いた泥を手で払う

蒼汰「考えなしかい」

二人、しばらく埋めた辺りを見つめる

蒼汰、ハツとして前を向く

蒼汰「あ」

恒星、蒼汰を見る

恒星「なんや」

蒼汰「思い出したわ」

蒼汰、車に走っていく

恒星、眉をひそめる

恒星「え？お前ここまで見越してたん？こわ」

蒼汰、走りながら答える

蒼汰「ちやうわ！！」

○シーン
駐車場 同上

蒼汰、車内をガサガサと探している

蒼汰「んー」

蒼汰、座席の下を見る

蒼汰「あ」

蒼汰、スーパーの袋を見つける

蒼汰、座席の下に手を突っ込む

蒼汰、座席の下から何かを取り出す

蒼汰「あつた」

○シーンーー 浜辺 同上

蒼汰、走ってくる

蒼汰「おい！」

恒星「え？ほんまにあつたん？」

蒼汰、恒星の前に立つ

蒼汰「これ」

蒼汰、カリフラワーを見せる

恒星「カリフラワーやん」

恒星、カリフラワーを見つめる

恒星「え？心の綺麗なものにはお花に見えて

るとかいちオチ？」

蒼汰、にやりと笑う

恒星「は？こわ」

蒼汰「お前さ、カリフラワーの花言葉って知

つとる？」

恒星「いや知らんけど」

蒼汰、敦紫を埋めた位置まで歩く

蒼汰「昔お前自慢げに言ってたよな」

蒼汰、微笑む

○回想 高校 教室 昼休み

敦紫、カリフラワーを箸でつまむ

敦紫、自慢げに何か言っている

○回想 戻り 浜辺 午前5時45分

蒼汰「覚えてるよ。なんでお前があの時自慢

げだったのかは未だによく分からんけ

ど」

蒼汰、カリフラワーを敦紫を埋めた位

置に刺す

朝日がさしこむ

蒼汰「お祭り騒ぎ、や。」

蒼汰、振り返って恒星を見る

蒼汰 「カリフラワーの花言葉」

恒星 、笑う

恒星 「ええな。あいつらしいわ」

恒星 、ふと海岸を見る

何か が微かに光っている

恒星 、そこまで歩いて行く

蒼汰 「どした？」

恒星 、微笑む

恒星 、鈴が聞こえたことを思い出す

恒星 、「なんや。ちよつとあいつの幽霊かな

とか期待しとったのに」

恒星 、鈴を拾い上げる

恒星 「鈴やわ」

蒼汰 「なんでやねん」

恒星 、鈴を大音量で鳴らす

蒼汰 「うるさ」

恒星 、敦紫を埋めたところまで来る

蒼汰 「シヤンシヤンうるさいって。何？」

恒星 「踊らんの？」

蒼汰 「あ？」

カリフラワー、敦紫を埋めた箇所突

き刺さっている

恒星、ニヤリと笑う

恒星「お祭り騒ぎなんやる？」

蒼汰、溜息をつく

蒼汰「それもそうやな」

恒星「俺が言うのもなんやけど大丈夫？ 疲れ

てる？」

蒼汰「俺たちはこのあとお墓の周りを踊り

回った」

恒星、鈴を鳴らす

蒼汰「鈴を鳴らして、よく分からない動き

をしながら笑いあった」

二人、墓の周りで踊り狂っている

蒼汰「もう情緒は意味わからんし、身体は

重いし臭いししんどいし」

二人、笑っている

蒼汰「でもまあ」

カリフラワーが突き刺さった地面

蒼汰「あいつ多分天国で笑つとるからええ

か」

→「鈴と鳴らしてカリフラワー」

エンドロール

使用楽曲…鈴々／PEOPLE1

○シーン② 車内 午前7時

蒼汰、運転している

恒星、あくびをする

蒼汰「寝んなよ？」

恒星「え？」

蒼汰「お前が寝たら多分俺も寝る」

恒星「あかんミイラ取りが時間差でミイラに

なってるまう」

二人、少し沈黙

恒星「あのさ」

蒼汰「ん？」

恒星「なんでこんなことしたん？」

蒼汰「会話へタクソなん？」

恒星「だってお前、こんなことするキャラと
ちゃうやん」

○回想 高校 教室

恒星、友達と笑っている
蒼汰、席で勉強している

○回想 戻り 車内 午前7時

恒星「いつも正しくて、道を外すことなんて
もつての外な」

○回想 高校 教室

恒星、蒼汰を見る
恒星、しばらくして目線を逸らす

○回想 戻り 車内 午前7時

恒星「馬鹿真面目なやつっていうイメージや

ってんけど」

蒼汰、少し考える

蒼汰「ええわけないと思ったから」

恒星、驚いた顔で蒼汰を見る

蒼汰「ええ訳ないやん。だってさ」

○回想 高校 教室

敦紫、笑っている

敦紫、変顔をしてはしゃいでいる

○回想 戻り 車内 午前7時

蒼汰「あいつは、もつとさ」

蒼汰、目に涙をためている

蒼汰「友達に囲まれて、猫とか飼って、なん

かさ、もつと」

○回想 道 夕方

夕陽が沈み始める

敦紫、はしやぎながら歩いている

恒星、それを微笑んで見ている

○回想 戻り 車内 午前7時

蒼汰、涙を流している

蒼汰「幸せに生きられるやつやったやん。

それをさ、なんか」

○回想 敦紫の家 玄関 外

蒼汰、チャイムを押す

蒼汰、玄関が空いていることに気付く

○回想 敦紫の家 リビング

蒼汰、リビングに入る

横たわる敦紫

蒼汰、駆け寄る

敦紫の首にはロープのあと

蒼汰、呼吸が荒くなる

○回想 戻り 車内 午前7時

蒼汰「腹立ってん。居ても立っても居れんく

なあってさ」

○回想 敦紫の家 リビング

蒼汰、敦紫を持ち上げる

蒼汰、敦紫をおんぶする

蒼汰、玄関から走って出ていく

○回想 戻り 敦紫の家 リビング

蒼汰「気がついたらおぶって走り出してたん

や」

恒星「なるほどなあ」

恒星、頭の後ろで腕を組む

○回想道

蒼汰、敦紫をおぶって走っている

蒼汰、恒星とすれ違う

恒星、蒼汰を見る

恒星「おい！」

○回想戻り 車内 午前7時

恒星「お前いつも品行方正のくせに意味わからん行動力発揮すなや。びっくりしたわあんとき」

蒼汰「言うなや。俺がいつちゃんびっくりしとるわ」

恒星「いや尊敬してんで？そのお前のきっしよい行動力」

蒼汰「けなしてるよな？殴ってええ？」

恒星「いやけなしてないって」

蒼汰、恒星をちらりと見る

恒星、真顔

恒星「いやまじで」

恒星、目に涙をためている

恒星「ありがとうな」

蒼汰、前を向く

蒼汰「おうよ」

恒星「ぶっさいくに涙だらだらこぼして無免

許運転でほんまにありがとうな」

蒼汰「おいやっばけなしとるよな！！？知ら

んぞ！おい！」

恒星「まあまあ。あはは」

蒼汰「ほんまにもう」

二人、笑いあう

車がこすれて大きな音が鳴る

蒼汰「あっ」

恒星「あっ」

蒼汰「あかんちよつとこすった」

恒星「どないすんねん全部台無しやで」

蒼汰「もう知らん」

恒星「あっはっは。やっぱ好きやわお前」

恒星、ニヤリと笑う

恒星「なーにが完璧主義者やねん」

終わり